

前橋市自立支援協議会広報  
みんなのらいふ 第25号

発行日 令和3年2月1日

発行元：前橋市自立支援協議会

問い合わせ：前橋市障害福祉課 前橋市自立支援協議会  
広報啓発部会 事務局

電話 027-220-5711

FAX 027-223-8856

URL [https://www.city.maebashi.gunma.jp/kenko\\_fukushi/4/10/1/11867.html](https://www.city.maebashi.gunma.jp/kenko_fukushi/4/10/1/11867.html)

みんなの  
らいふ

 みんなの아트(作品介绍) 



題字・作品を募集中



本紙に掲載する題字や作品(イラスト、挿絵等)を募集しています。あなたの作品で本紙に彩をそえていただけませんか。詳しくは事務局(連絡先は表紙に記載してあります)へお気軽にお問い合わせください。

今回の作品応募締切日は2月26日(金)です。

【作者】ながおか たいと 永岡 泰都さん

【作品名】『せかい みんななかよし』

【作品説明】東京オリンピックに向けて、リオオリンピックの全206参加国、全30競技を描いた作品です。制作期間は3か月かかりました。



(取材日：令和2年10月27日)



(↑ 市長からの感謝状は我が家の家宝)



## 【プロフィール】

5歳のときの事故が原因で、人とのコミュニケーションが苦手になり、小さなことで自信を失いやすくなってしまいました。

平成26年に「全国国立大学附属学校PTA連合会（全附連）絵画コンクール」で特別賞を受賞。以降、平成27～29年には「ぐんまこどもの夢大賞」で3年連続で銅賞を獲得しています。平成29年と31年には、ついに「全附連絵画コンクール」で会長賞に輝きました。また、表紙の絵は、平成31年の「SOMPOパラリンアートカップ」で群馬県賞を受賞した作品です。

個展も今までに2回開催。令和3年7月には長野県北安曇野郡池田町のコミュニティホールで3回目の個展を行う予定です。

## 【絵を描き始めたきっかけ】

2歳上の姉の影響で、6歳の頃から絵を描き始めましたが、本格的に取り組むようになったのは、13歳のときに上記「全附連絵画コンクール」で特別賞をいただいてからです。

今は毎日朝9時から夜9時まで、食事と休憩の時間以外は、ずっと絵を描いています。

## 【僕の絵の特徴、工夫していること、心がけていること】

黒色のクレヨンで縁取りをした絵を、他の色のクレヨンと水彩絵の具で塗っています。縁取りの黒色と他の色が混ざって汚くならないように工夫しています。道具を大切にすることを心がけ、クレヨンは米粒くらいになるまで使います。また、そのときにしか出せない色を使いたいので、絵の具のパレットは7年間洗っていません。パレットの上では、色が混ざり合い、その組み合わせでしか出せない色ができます。パレットを洗って、毎回新しい絵の具を出していると、いつも同じ色になってしまうでしょ？

## 【現在取り組んでいる作品】

令和2年3月に、太陽がコロナウイルスをやっつける絵を描きました。今はその太陽に手をつけて、太陽が手をつなぐ絵を描いています。それぞれの絵には世界の国旗が入っています。僕にとって、太陽はいつも笑っているお母さんのイメージ。世界のお母さんが仲良く手をつないだら、きっとコロナをやっつけられます。コロナが収まるまで1日1枚描こうと決めて、今では200カ国以上になりました。

その他、個展に向けて、SNSを通じて提供していただいた犬の写真をイラストに起こしています。

## 【将来の夢、今後の目標】

カレンダーの写真で見たハワイに憧れています。いつかハワイに行行って絵を描いてみたいです。

## 【皆さんへのメッセージ】

「僕は何もできない」と悩んだこともありましたが、主治医の先生に「できることをやれば良いんだよ」と言われて、「僕には絵がある」と気付くことができました。絵を通じてたくさんの人に出会うことができました。今までお世話になった人たちが、僕の絵を見て喜んでくれるのが嬉しいです。

泰都さんの大好きなお母さん、一江さんもこう語ります。「才能なんてものはないんです。継続は力なり。好きなことを続けてみてください。」



## みんなで考えてみよう ～障害者と共に働く未来へ～ 「第8回企業と福祉の情報交換会」を開催しました！



前橋市自立支援協議会「就労支援部会」では、1月27日（水）に「みんなで考えてみよう ～障害者と共に働く未来へ～」と題し、「第8回企業と福祉の情報交換会」をZOOM（Web会議アプリケーション）にて開催しました。今回の情報交換会は、障害者雇用に関する情報交換の機会を設けることで障害者雇用の促進を図ることを目的とし、企業の経営者、人事担当者、従業員、就労移行支援事業所の就労支援員等を対象に実施したものです。

### 【障害者雇用当事者へのインタビュー動画】

参加者の皆様には、事前に下記の2種類のインタビュー動画を視聴してもらい、障害者雇用への理解を深め、情報交換会の基礎としていただきました。

#### ①障害者雇用促進動画（制作：群馬県障害政策課）

障害者雇用に取り組む企業（7業種25事業所）の社長さんや人事担当の方へのインタビュー動画。障害のある方を雇用するにあたっての工夫や、支援機関との関わり方など。なお、この動画は参加者以外にもどなたでもご覧いただけます。

<https://www.pref.gunma.jp/06/g2200270.html>

#### ②企業で働く障害者の方の動画（制作：就労支援部会）

実際に企業で働く障害者の方（9人）へのインタビュー動画。仕事のやりがいや工夫、今後取り組んでいきたいこと、自らの企業に向けたメッセージなど。また、上司の方や特別支援学校の先生による障害者雇用の現場の声や、障害のある方と一緒に働くうえでの工夫や配慮の仕方など。



ベビーホタテ盛り付け作業



### 【オンライン情報交換会】

企業、官公庁、就労移行支援事業所の参加者、事務局及び協力関係機関、あわせて31事業所38人にご参加をいただきました。

Aグループ「障害者雇用を知ろう！」とBグループ「この先も障害者と共に働こう！」の2グループに分かれ、既に障害者を雇用している企業の体験談、これから初めて障害者雇用に取り組む企業が不安に感じていること、就労移行支援事業所での訓練ポイント、障害の特性、相談先関係機関や利用方法などについて、活発な意見交換を行いました。ウィズコロナ時代における「新しい生活様式」として挑戦したオンライン開催でしたが、無事に実施することができ、大変有意義なものとなりました。

## マイタクの利用がマイナンバーカードに一本化されます

障害者手帳をお持ちの方を含む移動困難者に対して、タクシー運賃を補助するマイタク制度。令和3年4月から新規利用登録がマイナンバーカードのみになります。また、令和4年4月からは、紙の利用券の利用者もマイナンバーカードでの利用に変更する必要があります。詳しくは前橋市のホームページをご覧ください。[https://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi\\_tetsuzuki/5/1/2/10649.html](https://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi_tetsuzuki/5/1/2/10649.html)



	新規利用登録		運賃支払時	
	紙	マイナカード	紙	マイナカード
現在	○	○	○	○
令和3年4月から	×	○	○	○
令和4年4月から	×	○	×	○





# 「障害者週間作品展」を開催しました！



前橋市自立支援協議会・前橋市では、障害福祉の啓発事業の一環として、障害のある人もない人も共に出会い、交流できる場として「みんなのフェスタ」を毎年の障害者週間に合わせて開催しており、本番の開催前には、プレイベントとして、前橋市役所1階市民ロビーで作品の一部を展示しています。

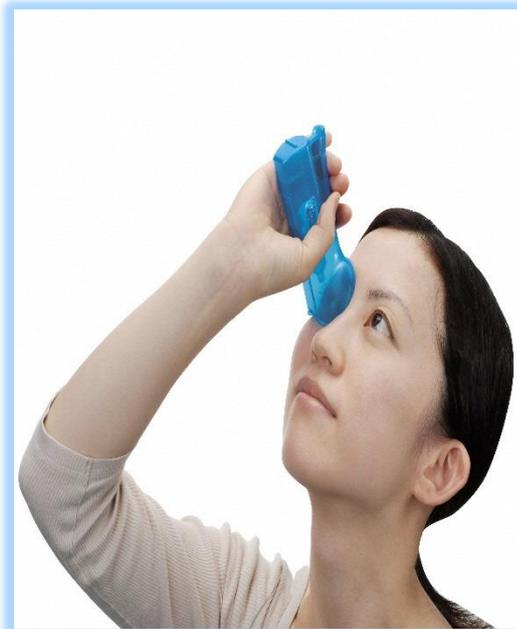
今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、残念ながら「みんなのフェスタ」は開催できませんでしたが、令和2年11月27日（金）から12月4日（金）まで、市民ロビーでの展示は行うことができましたので、その様子を紹介します。



## 【点眼補助具】

目薬を差すのに苦労したことはありませんか？指先の力が弱い人や視覚に障害のある人にとって、点眼作業はとても大変です。

そんなときは、この「点眼補助具」の出番です！指先の力が弱く、目薬の容器をつまみにくい人でも、容器を補助具にセットすれば、軽く握るだけで簡単に点眼ができます。補助具を目の上に固定するカップがついているので、視覚に障害がある人でも1回できちゃんと点眼でき、目薬の容器が眼球に触れることもないので、衛生的ですね。



## 編集後記

寒さが厳しい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。

今年に入っても新型コロナウイルス感染症の収束のめどは立たず、障害者やその関係者等のあらゆる活動も制約を受け、不自由な生活が続いています。

そのため、今年度は例年多くのご参加をいただいている「みんなのフェスタ」が中止となってしまいました。そんな中でも自立支援協議会の各部会は活動を続け、就労支援部会では研修会を開催することができました。私たち広報啓発部会も、引き続き、障害者の立場に立った紙面づくりに努めてまいります。

新型コロナが早期に収束し、今年こそはフェスタが盛大に開催できること、オリンピック・パラリンピックが無事に開催できること、そして、以前の生活に戻れることを願うばかりです。（齋藤 寛）

